

# 令和5年度自己評価公表シート

学校法人 鴨谷学園  
鳳 幼稚園

令和5年度の教職員の自己評価を実施した。

令和3年度に実施したECEQ《公開保育を活用した幼児教育の資質向上システム》に続き、令和4年度、そして令和5年度も7月5日に公開保育を実施し、本園の教育活動をより充実したものにできたと考える。公開保育実施の際に、堺市教育委員会指導主事および他園の先生方、周辺の小学校長にも参観いただき自園の取り組みについて見直す機会を持てたと同時に、幼少接続に繋がる機会も持てたのではないかと考える。全職員が同じ目標に向かい日常の保育を見直し、自己の問題点を把握すると共に自園および保育者自身の強みを確認でき、自信をもって保育に取り組むことができるようになったと同時に、今後の課題について全教職員で受け止めることで改善の方向性を具体的に指し示すこともできた。

また、毎月末にクラスごとに保育者が作成したドキュメンテーションの報告をすることで全員の保育の見える化を図ることができ、また、自身の保育の振り返りを行うことができた。

## I.教育目標

鴨谷学園独自のカリキュラムを基本に、鳳の地域性と開園11年目の状況を振り返り、保育全般について計画的に取り組んでいく。

- ① 幼児期にふさわしい生活習慣を育てる。
- ② 恵まれた環境の中で、豊かな感性を育てる。
- ③ 友達との生活を通して、やさしさと思いやりの心を育てる。
- ④ 地域、学校との連携を図り心身ともに健康な子どもを育てる。

## II.今年度の重点目標

- ① 美木多幼稚園・諏訪森幼稚園・鳳幼稚園の3園の園長、主任と理事長が集まったの主任会において、情報交換にとどまらず、安心安全な環境の中での行事の実施について意見交換を行う。また、日々の保育の質向上について話し合いを行う。
- ② 教育目標達成をめざして、評価項目にそって自己点検・自己評価を実施し教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、保育内容の確立と施設・設備の充実に主体的に取り組む。
- ③ 職員一人ひとりが意見を発表し、全員で考え、取り組んでいくという意識を持てるよう、ファシリテーター研修に参加済みの教員が中心となって、職員会議や反省会の運営を行う。
- ④ 職員の業務内容および労働環境について見直しを図り、合理的な働き方ができるよう働き方改革を推進する。
- ⑤ 年間カリキュラムの精選および教育課程の見直しを行うとともに、適切な子ども理解のもとに日々の保育活動でのねらいを把握し、子どもたちの健やかな育成に努める。
- ⑥ 毎月の保育の振り返りとしてドキュメンテーションによる報告会を月末に行う。
- ⑦ 子育て支援の一環として、無料で月1回の子育て広場を開催する。

## III.評価項目と取り組みの状況

	評価項目	評価目標	取り組み状況
1		教育方針、目標は園の特色を生かしたもの	全教職員は、教育目標を確実に理解し保育活動の充実に向けて努力した一年であった。収穫体験を中心に、秋の登山など自然にふれる機会は

	教育方針・目標	になっている。	A	十分に達成できた。大型遊具の設置等、園庭の施設設備は、計画的に充実した。 体操、音楽、絵画、英語の専科講師の指導により幅広い教育活動となった。
2		園の教育方針や目標を保護者の理解を促すように、取り組んでいる。	A	園だよりや毎日更新のブログ、懇談会、保育参観、3大行事の実施など保護者対象の行事活動により教育方針・内容を保護者に伝え理解を促すようにした。 連絡ノートや降園時の保護者との関わりの中で、担任と保護者の情報交換も十分にできた。
3	教育課程の編成	教育課程の編成は、幼稚園の教育要領を踏まえ園の教育方針に従い編成している。	A	昨年度見直した教育課程をもとに、5領域をバランスよく編成できるように取り組みを進めた。 学年ごとに次週の週案の見通しをたて、学年の打ち合わせにおいて余裕をもった指導計画に十分配慮した。
4	教育内容の保護者への周知	園の教育、保育のねらいや内容を保護者にわかりやすく伝える工夫をしている。	A	家庭訪問や年2回の個人懇談を通して保護者と共通理解をして保育のねらいや内容をわかりやすく伝えている。また、感染症対策を行った上で、安全に実施できると判断したうえでの体操参観、給食参観、英語参観を実施した。 毎月、園だよりを発行、各学年のねらいや詳しい内容、行事の詳細について知らせている。給食の献立や保健だよりも園だよりに綴じ1冊にまとめて伝えている。また、毎日の教育活動の中から撮影した写真をもとにブログ公開を毎日行っている。 入園説明会を開催し、本園の教育方針や特色について、詳しく知らせている。また園見学は随時受け付けるなど、園の教育、保育のねらいや内容について、つねにオープンにしている。
5	教育環境の構成	幼児を温かく受け入れる環境を作り人と関わる力が育つような配慮をしている。	A	園庭遊びを大切に考え、自由遊びの場で遊びの場が広がるようにしている。預かり保育時間では異年齢交流を促すことができるよう活動を工夫している。3園合同行事を計画することで姉妹園の子どもとも交流を通して人と関わる力が育つように配慮している。

6		子どもがさまざまな文化を受け入れる配慮や環境、交流を整備している。	A	全学年において週1回外国人英語教師による時間を取り入れている。また、英語のカリキュラムを編成し、年間を通して計画的に保育の実践に努めている。
7	教職員同士の協力・連携	指導上配慮を必要とする幼児の自立の遅れについて A、全教職員で十分に話し合い、共通理解の上で対応する。	A	自立に困難が見られる子どもは、学年やクラス毎の見解にとどまらず、臨床心理士や堺市教育委員会からの巡回指導を受け専門的な見解を得ることで、より正しく子ども理解ができるように努めている。 専門的な意見を考慮し、園全体が共通理解の上で、適切な支援に心がけている。 大阪府や堺市が開催する研修会に積極的に参加し、障がいについての理解を深めている。 日々の保育の終わりに終礼をもち子どもの姿や問題点を話し合う機会を大切にしている。
8	研修、研究会への参加	幼児期の発達発育を促す運動遊びやその指導法を研究している。	B	体づくりについては、年間計画によりすすめている。縄跳び運動などを年間通じて行い、体力づくりに取り組んでいる。運動は、一年を通して計画的に指導をしている。職員は様々な研修会に、積極的に参加している。体操集会を実施できない時期が多かったことが反省である。
9	健康、安全 衛生への配慮	健康面 食物のアレルギーなどの問題について取り組んでいる。	A	食物アレルギーについては、管理栄養士が個々の子どもの実態に応じて対応している。また、応急処置について園医先生より研修を受け、実際にエピペン使用の体験を行った。
10	健康、安全 衛生への配慮	体調が悪そうな時は静かに休ませる、検温するなど適切な処置を行い状況によっては、家庭へ連絡している。	A	体調の変化 怪我などは担任一人で判断するのではなく、担当者や園長の指導のうえに対処している。特に体温が37.5度を超える場合や腹痛、下痢、嘔吐症状の場合は家庭に連絡し、保護者に迎えをお願いしている。。
11		トイレの清掃や使い方について発達段階に配慮し正しい使い方を具体的に伝える。	B	トイレの衛生 清掃は日々のチェックを怠らないようにし、シルバー人材へ委託し、清掃・美化に徹底している。 スリッパの並べ方、排便・排尿の指導、トイレトペーパーの使い方など、年齢に応じた指導を徹底している。

12	安全管理体制の整備	緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）対応手順について全職員が共通理解を持てるように取り組んでいる。	A	<p>遊具の安全点検を実施し必要に応じて補修をし、園内においては毎月1日を安全点検の日として、整理や不具合な箇所を確認している。</p> <p>園の防災計画に基づいて、地震、火災を想定した避難訓練を行っている。また、不審者侵入を想定しての危機管理マニュアルを作成し、警察官来園の上で不審者侵入時の対応訓練を実施した。</p> <p>感染症が広まるような可能性がある場合は、直ちに保護者にメール配信等で伝え、園内における怪我や嘔吐などは、本園のマニュアルに従って対処している。</p>
13	情報の発信と受信	子どもの様子は、おたより帳や電話を活用して伝えあっている。	A	<p>日々の子どもの様子は、おたより帳や電話で伝え、場合によって保護者と直接話すようにしている。園のスクールバスの運行状況は、アプリ画面で確認でき、また園とバスは無線で連絡できている。園行事の天候による変更はメールやブログ等で伝えている。</p>
13		保護者を対象とするアンケートを実施し保護者のニーズを踏まえた園経営に生かすように努めている。	A	<p>行事ごとにアンケートを行い、結果のまとめは保護者に報告して公開している。</p> <p>保護者対象の行事については、今後も保護者の声を聞き入れ、改善できるように取り組み、園経営に活かすようにしている。</p> <p>年2回個人懇談会を行い、保護者の考えを十分に聞き入れるようにした。保護者の積極的な参加は、常に活気のあるものとなった。</p>
14	子育て支援事業と地域への開放と支援	支援事業の一環とし預かり保育、自由登園家族登園を実施している。地域の子育てセンターとしての機能を発揮している。	A	<p>希望する子どもが登園する自由登園、夏休み中には学年別の自由登園を3回実施できた。</p> <p>また、年間3回、家族で楽しめる家族登園を計画し、それぞれのプログラムを楽しんで頂くことができた。</p> <p>土曜日、代休日、長期休業中の預かり保育を実施し、また、土曜以外は早朝延長も実施した。栄養士が手作りのおやつを提供し好評である。そのため、預かり保育利用園児数は年々増加状態である。また5年度より長期休業中には預かり保育参加者全員に給食を実施した。（冬休みは除く）</p> <p>未就園児親子登園は2歳児クラスだけでなく1歳児クラスも行い、また月1回の「子育てさん集まれ」を実施することで地域の0歳児や1歳児、2歳児を持つ母子が参加できる機会を設けることができた。</p>

A	十分達成されている。
B	達成されている。
C	取り組まれているが、成果が十分ではない。
D	取り組みが不十分である。

【 評価の基準 】

今後取り組むべき課題

	課 題	具体的な取り組み
1	カリキュラムの編成と充実	幼稚園教育要領改訂をふまえ、年間行事を視野に入れたカリキュラムの改正及び編成を工夫する。 保育の資質向上及び充実を図ろうとすると、どうしても行事が盛りだくさんになるために、運動会、作品展、音楽生活発表会などの取り組みには余裕をもった保育計画をたて、行事内容の充実を図る。
2	姉妹園との交流活動の充実	3園の主任会において積極的に意見交流を図ることで、それぞれの園の保育活動が充実し、質の高いものになるようにする。
3	教職員の資質向上	今後も保育実践についての研修は、引き続き計画的に行う。保育者としてのあり方、人としての基本的なマナー等について研修する機会も大切に継続する。 園外の研修に積極的に参加し、教職員の資質向上に努める。堺市教育委員会の指導主事の指導を受けながら研究保育を積極的に実施し、幼少接続に繋がるよう公開保育の実施を継続する。
4	家庭との連携の充実	アンケートや懇談会の実施により、保護者のニーズの把握に努める一方、園の考えを発信しながらより良い園を目指し更なる改善に努める。
5	地域との交流、幼少接続の充実	小学校との交流活動を積極的に行い、スムーズな幼少接続となるようにしていきたい。令和6年度も近隣の小学校及び教員を招き日常の保育の様子を見ていただく機会を設定すると同時に、年長の子どもたちが小学校の授業の様子を見せていただく機会を6年度も継続していき幼少接続を

		推進したい。また、地域のお祭りや子育て広場での保育活動にも積極的に参加し、地域の中の幼稚園であるということの意識をさらに高めたい。
6	異文化とかがわる機会の充実	英語専科の外国人教員との関わりを深め子ども達に異文化と触れ合う機会を多くする。5年度より開始した満3歳児とメノール2歳児クラスとの合同英語で保育を充実させる。 絵本・紙芝居などを通して、異文化にふれる機会を計画的に設定し国際理解教育の基礎を育成する。

#### IV. 学校関係者評価

令和3年度のECEQ公開保育に引き続き4年度、5年度も自主的に公開保育をするということで案内いただいた。全職員が保育活動を公開すると聞き、参観を楽しみにしていたが、当日の参加ができず残念であったが、堺市教育委員会から指導主事の方が2名、近隣の鳳南小学校、福泉上小学校の各校長も参加し、公開保育後の協議会においても本時の保育に関する指導助言を聞くことができたという報告を受けている。

全教職員が教育内容・教育計画を共通理解のもとに、自分自身の強みと課題を把握する中、公開保育に向けて保育内容の精選、取り組みを進めてきたとの報告も受け、開園11年目の鳳幼稚園として着実に保育実践に取り組んでいると感じている。

園内研修として毎月の保育をドキュメンテーションにして取り組みを発表し、また、年度末には10の力のどの力が付いたかを考え、自身の言葉で伝え合う機会を持ったと聞いている。各保育者が行っている保育活動で子どもたちにどんな力をつけることができたかを年度末の振り返りとして行ったことはとても有効な研修であり、次の年度への大きなステップになるのではと期待している。

開園12年目となる令和6年度も更なる園児の健やかな成長・発展および職員の資質向上に繋がるよう願っている。

元 堺市立福泉中央小学校 校長 角 谷 芳 子

先日、奈良で4歳児の公開保育がありました。夏祭りでの経験で興味を持った子ども達からの希望のテーマ『バーベキューをしよう』でした。部屋には本物のキャンプ用のテントが張られ、子ども達手作りのバーベキューコンロが4台、色画用紙の紙皿、串、塩、コショウ入れなどが用意され、環境は整っています。色画用紙で作ったお肉、ピーマン、ウィンナー、とうもろこしなどを串に刺して味付けをする仕草も大人顔負けです。「お肉が焼きたいいい匂い、焦げ目もついて食べごろやで、先生食べて！」「この串のここ持つとアチチ。やけどするよ。」と焼き肉のにおいやコンロの熱さも感じ、4歳児とは思えない言葉の豊かさに驚き、その気になって生き生きと活動している姿に感動しました。

この幼稚園のように、日頃から先生たちの求める楽しむ保育への配慮は、鳳幼稚園でも同様に保育の中にたくさんあります。

- 活動の内容が発達段階にそっている。
- 活動内容と材料があっている。
- 題材への興味付けはどうか。
- 楽しい導入があるか。

- ・適切な助言、指導があるか。

発達段階にあった題材にはイメージが湧き、意欲も高まり導入や共感・容認の言葉があるとやる気もおきます。思いを共有し、友だちとの関わりを持つことで協同性や自然な連帯感が生まれ、活動を終えての満足感・達成感を味わえます。「もっと、続けてやりたい！！ああ面白かった。」と子どもの声が出る質の良い保育は身につく保育だと思います。

鳳幼稚園では、絵画指導で訪れるたび先生たちが常に質の高い保育を展開できるようにと子どもたちの日々の様子をしっかりと把握し、子どもたちに寄り添っている姿を目にします。そして、いつも明るい笑顔で楽しそうに子どもたちと保育活動を進めています。保育者が楽しむと子ども達も楽しむ。そんな保育が毎日だといいですね。

元 大阪信愛女学院短期大学子ども教育学科客員教授  
舟井 賀世子